

# 膨らむ大阪万博関連経費

「身を切る改革」とうたってきたのはなんだったのでしょうか。日本維新の会が、大阪万博(ゆめしま)でカジノを中核とする統合型リゾート(IR)の誘致計画と一体で進めてきた2025年大阪・関西万博の関連経費が際限のない上振れを繰り返しています。万博の会場建設費の増額分は国の負担で、求めた大阪維新府議団には、全国から「自分たちで払え」との怒りの声が。「無駄をなくす」と叫びながら大開業には大盤振る舞いの維新政治の正体がいよいよはっきりしてきます。

1兆円超に膨張  
万博の会場建設費(国、大阪府・市、経済界が3分の1ずつ負担)は、最大で2025年度に膨らむ見通しです。

22億円、万博跡地の液化化対策や警察力強化など含む「今後予定する事業」に2816億円となっています。これらを、国とともに推進してきたのが維新です。

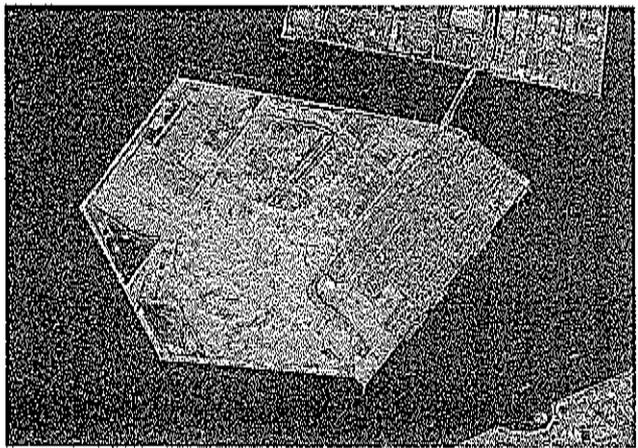
上振れしているのは万博開催に名乗りを上げた松井一郎元大阪府知事は17年、万博・カジノは「成長の起爆剤」だと主張。維新は万博の誘致実現を「実績」としてアピールしてきました。

内訳は、会場建設費や万博でのインフラ整備を含む「万博・万博関連事業」に4449億円、万博業者が決まらず、万博の海外パビリオン建設の会費のひらを返し

万博開催に名乗りを上げた松井一郎元大阪府知事は17年、万博・カジノは「成長の起爆剤」だと主張。維新は万博の誘致実現を「実績」としてアピールしてきました。

内訳は、会場建設費や万博でのインフラ整備を含む「万博・万博関連事業」に4449億円、万博業者が決まらず、万博の海外パビリオン建設の会費のひらを返し

## 維新「身を切る改革」うたうが… 「納得できない」国民怒り



万博、IRの予定地となっている大阪湾の人工島・夢洲 ©Google

国へ責任を転嫁  
日本維新の会の馬場伸幸代表は、8月30日の党会合で「万博というのは国の行軍、国のイベントなので、(遅れが)大阪の責任ではなしに、国を挙げてやっている」と発言し、国へ責任を転嫁しました。

「身を切る改革」を党是としてきた維新の会ですが万博・カジノのために投じる予算は膨張し続けています。

9月27日の会見で、維新の藤田文武幹事長は、会場建設費の上振れが「身を切る改革」を訴える党の姿勢に反するのではないかと問われると、「身を切る改革」の概念がまったく分かっていないんじゃないですかね」と開き直りました。また、

「身を切る改革」について、「合理的な判断をするためにまずは無駄を省いていこう、既得権をなくしていきなさい」といって、合理的な予算執行というものをやっていると。金額の多寡ではなく「納得できない」と。民意を切り捨て

「身を切る改革」といって、「合理的な判断をするためにまずは無駄を省いていこう、既得権をなくしていきなさい」といって、合理的な予算執行というものをやっていると。金額の多寡ではなく「納得できない」と。民意を切り捨て

「身を切る改革」といって、「合理的な判断をするためにまずは無駄を省いていこう、既得権をなくしていきなさい」といって、合理的な予算執行というものをやっていると。金額の多寡ではなく「納得できない」と。民意を切り捨て

(島田勇登)